

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

イトトンボ科 Coenagrionidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (要件-①②)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長はオス 23~32 mm、メス 22~31 mm。小型のイトトンボで、体色はオスでは黄緑色の地に前胸部や腹部背面に黒条斑があり、腹端は鮮やかな朱橙色である。メスは未成熟なうちは淡い橙黄色だが成熟するにつれ黄緑色になり、腹部背面には黒い縦条が現れる。5月下旬~8月にかけて出現する。オスは抽水植物などに静止して縄張りをもつ。メスは単独で、柔らかい抽水植物の水面近くの生体組織に産卵する。

2. 分布

国外では朝鮮半島から中国中部、極東ロシアに、国内では北海道の函館周辺と本州、四国、九州に分布する。県内では東部・伊豆と西部に既知産地があるが、中部では確認されていない。御殿場市、裾野市、磐田市、浜松市、湖西市などに記録がある。

3. 生息環境

主に平地や丘陵地、低山地の草丈の短い湿生植物が繁茂する湿地や水田、休耕田などに生息する。ハッチョウトンボやハラビロトンボ、ヒメアカネなどと同所に見られることが多い。幼虫は乾燥に対してはある程度の耐性がみられ、御殿場市の例では水が完全に抜かれ、ひび割れた湿土の割れ目から多くの生きた幼虫を採集したことがある。

4. 生息状況

県内での既知産地は、ほとんどが湿地化した休耕田であり、放置すれば短期間で遷移が進行し、草原化してしまう環境である。御殿場市の一産地は、駐車場にするため埋め立てられ消失した。また別の御殿場市の産地は、休耕田を利用したハス観賞池であり、発生数は多いが、毎年出現期の終盤頃に殺虫剤を散布される。

5. 減少の主要因と脅威

湿地環境の減少 (15-1) が主要因と考えられる。また水田やその周辺の生息地では、農薬や化学肥料の影響 (32) も可能性がある。不安定な環境に生息するため、幼虫はある程度の乾燥には耐えられるようであるが、水の供給が長期間途絶えると、乾燥に耐えられず死滅する可能性がある。遷移が進行中の不安定な湿地を転々と移動する (53) もものと思われ、湿地環境の著しい減少に伴い、激減したものと考えられる。

6. 保護対策

自然状態の湿地には確実な産地がなく、現存産地はいずれも休耕田である。現存する自然湿地を、適度な植生管理により保全するとともに、休耕田の産地では土地所有者などに協力を仰ぐなど、生息環境の確保が重要であろう。

7. 特記事項

全国各地で減少しており、絶滅した可能性のある県も複数ある。

8. 主な文献

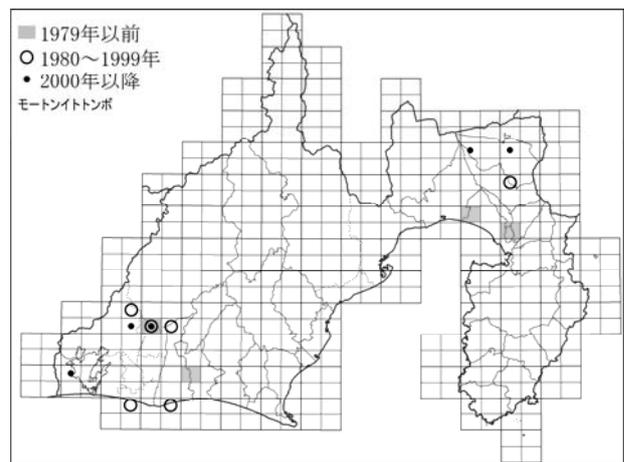
加藤哲男 (1990) 引佐郡のトンボ相 (第1報). 駿河の昆虫, (152): 4353-4361

9. 標本

浜松市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵



©2019 M.Kasuya
御殿場市 2014年6月29日 加須屋 真



(加須屋 真)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧(NT)]

1. 種の解説

体長はオス 66~79 mm、メス 66~77 mm。腹部第3節のくびれがなく、寸胴な中型のヤンマ。体色や斑紋はオスメスでほとんど差がなく、全身が鮮やかな黄緑色で、翅胸前面と腹部背面に黒色条がある。オスは成熟すると地色がやや青みがかかる。オスは密生したヨシなどの抽水植物の間を縫うようにして飛翔し、メスを探す。メスは密生するヨシなどの間に潜り込むように飛翔し、これらにつかまり単独で葉や茎の生体組織に産卵する。4月下旬~8月初めにかけて出現する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア極東に分布する。国内では北海道道南、本州、四国、九州に分布する。県内では磐田市、浜松市、湖西市など西部に記録が集中するが、東部の駿東郡清水町に古い記録がある。

3. 生息環境

主に平地や丘陵地のヨシ、ガマ、マコモなど高茎抽水植物が繁茂し腐植物が堆積したやや泥深い池沼や緩流、ヨシ原湿原に生息する。特にヨシが繁茂した環境を好む傾向があり、ヨシの存在は本種の生息に重要な要素と考えられる。

4. 生息状況

磐田市、浜松市には産地が現存する。近年では産地は天竜川下流域周辺にほぼ限られる。いずれの産地も以前に比べ、個体数は減少傾向である。

5. 減少の主要因と脅威

主な生息環境であるヨシ原湿原の埋め立て(15-1)などによる消失や、護岸工事などによる抽水植物の消失(12)が主要因と考えられる。本種の保全、個体数の維持には、比較的大きな面積のヨシ原の確保が必要である。

6. 保護対策

主な生息環境である豊かなヨシ原を含んだ湿地・池沼環境を、周辺を含め、広範囲に保全する。家庭排水や化学肥料の流入による水質汚染や富栄養化、農薬の流入などにも留意が必要である。富栄養で泥深い環境に生息するため、堆積物や泥に潜り込む性質のあるアメリカザリガニには、特に注意が必要であろう。

7. 特記事項

全国的に産地は限られ、地域によっては減少が著しい。

8. 主な文献

細田昭博(1985) 浜松市のトンボ相. 駿河の昆虫, (129): 3745-3753

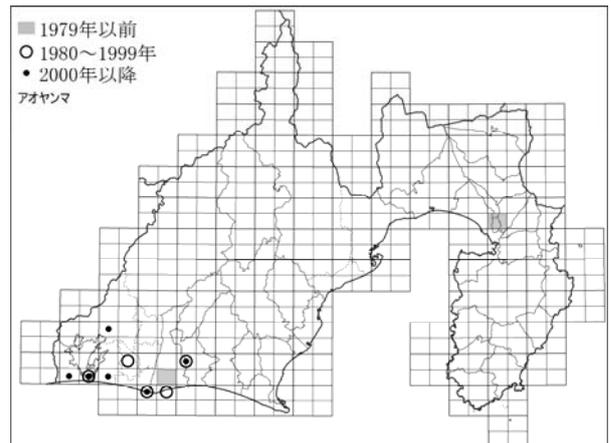
福井順治(1995) 磐田市桶ヶ谷沼におけるトンボ類の羽化殻調査. 駿河の昆虫, (169): 4775-4781

9. 標本

磐田市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵



©2019 M.Kasuya
磐田市 2002年6月21日 加須屋 真



(加須屋 真)

ホンサナエ *Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

サナエトンボ科 Gomphidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①)変更コード1,6

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長はオス 49~53 mm、メス 49~55 mm。ずんぐりとした中型のサナエトンボで、体色はオスメスともに黒地に黄色斑がある。翅胸前面の黄色斑は正面から見てZ字を向き合わせた模様である。胸部側面には通常1本の黒条がある。複眼は成熟すると緑色になる。5~6月にかけて出現する。成熟オスは岸辺の砂地や石の上などに静止して縄張りをもつ。メスは単独で、岸辺に静止して腹端に卵塊を形成した後、水面を打水し産卵する。

2. 分布

日本固有種とされ、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では狩野川水系に分布する。

3. 生息環境

主に平地から丘陵地、低山地を流れる河川中流域や小川、用水路などに生息するほか、芦ノ湖や山中湖など湖の湖畔にもみられる。オスは瀬石のごろごろし、比較的早い流れに隣接したやや緩やかな岸辺に縄張りをもつ。

4. 生息状況

県内の確実な産地は伊豆の狩野川水系にほぼ限られる。しかし2000年以降確認されておらず、現状はきわめて憂慮される。本調査での確認は、三島市街地を流れる湧水河川で、近くの住民により羽化が偶然撮影されたものであり、何らかの理由で卵または幼虫が非意図的に移入された可能性も排除できない。

この河川は柿田川から取水した水をろ過せずに流下させているとのことなので、取水元である柿田川には残存している可能性が示唆される。

5. 減少の主要因と脅威

一般的にはコンクリート護岸などによる環境変化(13)、家庭排水流入(31)、コイなど大型捕食者の人為的な放流(52-3)などの要因が考えられる。しかし狩野川水系では河川環境に大きな変化が認められないまま、確認できない状況が続いている。人為的な河川環境の改変だけでなく、降水量の変化など自然環境の変化(71)も影響している可能性がある。台風の影響による河床の大規模な攪乱(55)は、生息に大きな影響を与えている可能性がある。

6. 保護対策

できる限り現状を維持し人為的改変を行わないようにしながら、経過観察を続けることが必要であろう。

7. 特記事項

近年各地で減少傾向が著しく、東北~北陸地方では特に顕著である。静岡県以西の個体群は西日本個体群とされ、東日本個体群とは若干の差があるという。

8. 主な文献

加須屋 真 (1992) 田方郡のトンボの記録(第2報). 駿河の昆虫, (158): 4504-4509

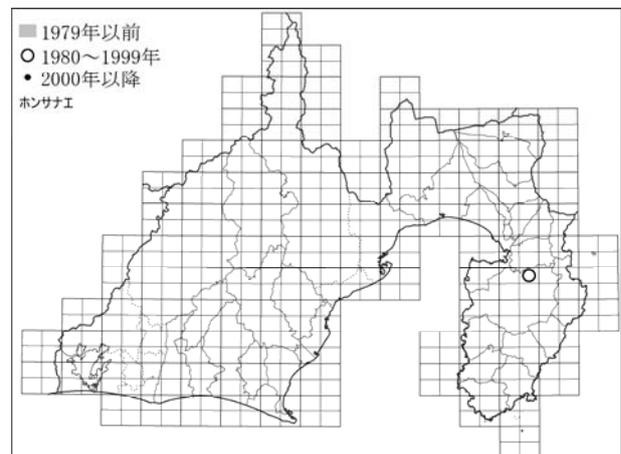
油井雅樹 (1998) 伊豆地方で採集・観察したトンボの記録. 駿河の昆虫, (182): 5111-5117

9. 標本

伊豆市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵



伊豆市 1998年5月23日 加須屋 真



(加須屋 真)

コサナエ *Trigomphus melampus* (Selys, 1869)

サナエトンボ科 Gomphidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①)変更コード1, 3, 6

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長はオス 40~47 mm、メス 41~47 mm。小型のサナエトンボで、体色は黒地に黄色斑がある。翅胸前面の黄色斑は正面から見てL字を向き合わせた模様である。胸部側面には通常1本の黒条がある。複眼は成熟すると緑色になる。4~6月にかけて出現する。オスは水辺の植物の葉や石などに静止し、縄張りをもつ。産卵はメス単独で、腹端に卵塊を作り水際の植物上を打空して行う。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州に分布する。北海道や東北及び山地帯では比較的ふつうだが、西南日本ではほとんどが高標高の冷涼な環境に限られる。県内では沼津市、富士市、富士宮市、静岡市、島田市、川根本町、森町、浜松市などに記録がある。1950年代には旧韮山町、駿東郡清水町などでも記録がある。

3. 生息環境

主に丘陵地から山地の、周囲に樹林があり、抽水植物や浮葉植物、沈水植物などが豊富な池沼や湿地に生息する。

4. 生息状況

近年生息が確認できない産地や、消滅した産地が多く、安定した産地はごく限られる。沼津市(旧戸田村)の産地は、暖地では珍しい海岸近くの産地であり、寒冷地に分布の中心がある本種の生息地として特筆に値する。

5. 減少の主要因と脅威

沼津市(旧戸田村)の産地は富栄養化が進み(54)、水質の悪化(31)が懸念される。富士市の産地はコイが放流されており、本種に捕食圧(52-3)を与えている。富士宮市の産地は、湿原の遷移・乾燥化(54)が認められ、本種の生息環境である池塘の縮小や消失がみられる。

6. 保護対策

生息環境と良好な水質を保全すること、コイなど生態系に強い影響を与える生物の導入を防ぐこと、導入が確認された場合は駆除することが必要である。遷移の進行による生息環境の変化については、湿原全体の保全計画を策定する必要がある。

7. 特記事項

北海道や東北ではもともと稀な種ではないが、特に関東地方などでは減少が著しい。本県での分布はきわめて限られる。

8. 主な文献

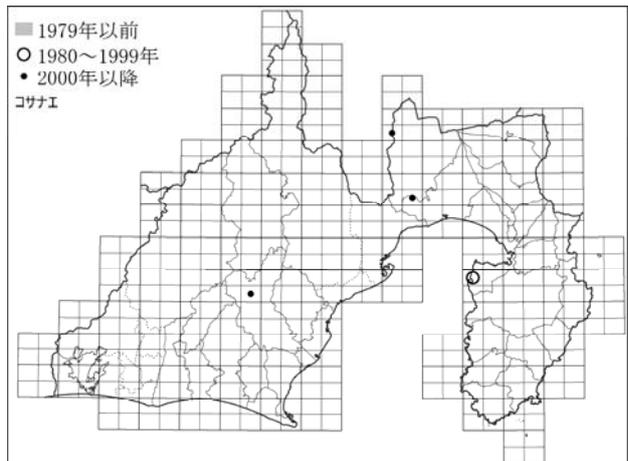
福井順治(1985) 静岡県とその周辺部におけるコサナエ属サナエトンボの記録. 駿河の昆虫, (129): 3754-3764

9. 標本

島田市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵



©2019 M.Kasuya
富士宮市 2011年6月25日 加須屋 真



(加須屋 真)

タバサナエ *Trigomphus citimus tabei* (Asahina, 1949)

サナエトンボ科 Gomphidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (要件-①②)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長はオスメスとも 43~47 mm。小型のサナエトンボで、翅胸前面の黄色斑は正面から見てL字を向き合わせた模様である。胸部側面には通常1本の黒条がある。体色はオスメスともに黒地に黄色斑がある。複眼は成熟すると緑色になる。4~6月にかけて出現する。オスは水際の植物や地面に静止して縄張りをもつ。メスは単独で水域に飛来し、ホバリングしながら卵をばらまく。

2. 分布

朝鮮半島から中国東北部にかけて分布するタイリクタバサナエの日本固有亜種で、国内では静岡、岐阜、滋賀、福井各県以西の本州と、四国、九州に分布する。静岡県は太平洋側の分布の東限にあたり、東部・伊豆はもともと分布していない。県内では島田市、磐田市、浜松市、湖西市に記録があるほか、静岡市に古い記録がある。

3. 生息環境

主に平地や丘陵地、低山地などにある田園地帯の、周囲に樹林や草地がある浅く緩やかな小川や用水路、谷戸の奥に作られた灌漑用ため池などに生息する。完全な止水ではなく、河川や用水路が流入し、水の入替わりがある池沼を好む傾向がある。

4. 生息状況

丘陵地、低山地の農地周辺の開発行為や管理放棄による遷移により失われた産地が多い。一方浜松市浜北地区や引佐地区では、休耕田を利用したビオトープの一部で定着の可能性も確認されている。

5. 減少の主要因と脅威

主に農地周辺に生息するため、農業近代化による水路やため池の環境変化(12、13)、農業排水の流入による水質汚染(31、32)が主要因と思われる。農業用水路のコンクリート化(15-2)は、水底の泥に潜り込む習性のある本種幼虫に大きな影響を与える。

6. 保護対策

良好な水質の維持のため、家庭排水や農業・畜産排水等の流入に注意が必要である。また生息地周辺に植生があることも重要な要素であり、生息地周辺のやや広範囲な環境保全が必要である。

7. 特記事項

静岡県より西の地域では稀な種ではないが、分布東限に当たる本県では分布はきわめて限られる。

8. 主な文献

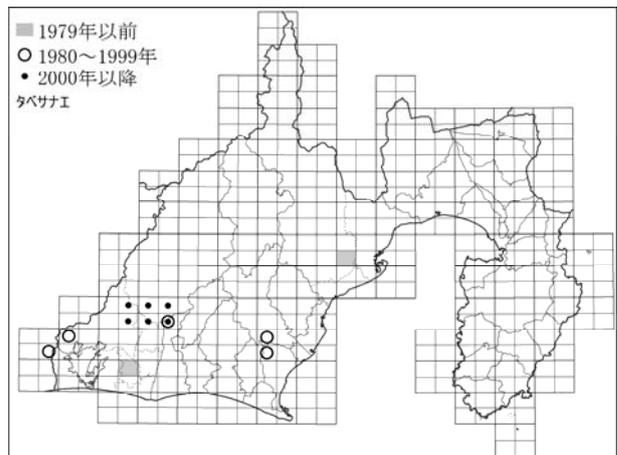
福井順治(1980) 浜北市・天竜市とその周辺のトンボの記録。駿河の昆虫, (109): 3215-3221

9. 標本

浜松市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵



©2019 M.Kasuya
浜松市 2017年4月30日 加須屋 真



(加須屋 真)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (要件-①②)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

体長はオス 58~64 mm、メス 61~66 mm。体色はオスメスあまり差がなく、ほぼ全身が鈍い金属光沢のある黒緑色で、翅胸側面などに黄色斑がある。6~9月にかけて出現する。オスは流れの上などを頻繁にホバリングしながら飛翔し、縄張りを形成する。産卵はメス単独で、流れのやや緩く浅いよどみなどにホバリングしながら降下し、腹端を水面や砂泥底を打つようにして行う。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道の一部と本州、四国、九州に分布するが、産地はかなり局地的である。県内では東伊豆町、富士宮市、静岡市、菊川市、袋井市、浜松市などに記録がある。

3. 生息環境

主に丘陵地や低山地の湿地や湿原の細流、湧水に関わる抽水植物や沈水植物が繁茂する清流などに生息する。他県では比較的大きな河川の河川敷内を流れる水生植物が豊富な小分流で見られることがある。

4. 生息状況

各産地とも個体数は少ない。東伊豆町では低山地の湿原を流れる細流、静岡市では低山地に囲まれた耕作地周辺の伏流水由来の小河川、小笠山では樹林に囲まれた沢の細流に生息している。いずれの産地でも様々な条件により、水温が年間を通じてあまり上がらないことが共通している。このことが本種の生息条件の一つである可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

県内にはもともと本種に適した環境そのものが少なく、そのためもともと産地、個体数ともに少ないものと推察される。各産地とも現状では大きな人為的改変は認められない。しかしほとんどが湧水、伏流水に関わる産地のため、著しく降雨の少ない状態が長期間続くような場合(71)、影響が出ている可能性がある。

6. 保護対策

湧水、伏流水の確保のため水源林の確保が重要である。そのためには生息地周辺の広範囲にわたる自然環境の保全が必要であろう。

7. 特記事項

分布域は広いが環境選好性が狭いため、産地はもともと限られる。近年各地で減少傾向である。

8. 主な文献

福井順治 (1979) 日本平・久能山その周辺のトンボの記録. 駿河の昆虫, (107): 3155-3160

江間修司 (1988) 静岡市諸川池のトンボ相. 駿河の昆虫, (144): 4137-4142

油井雅樹 (2002) 伊豆半島におけるトンボの採集記録(1998~2001年). 駿河の昆虫, (199): 5563-5565

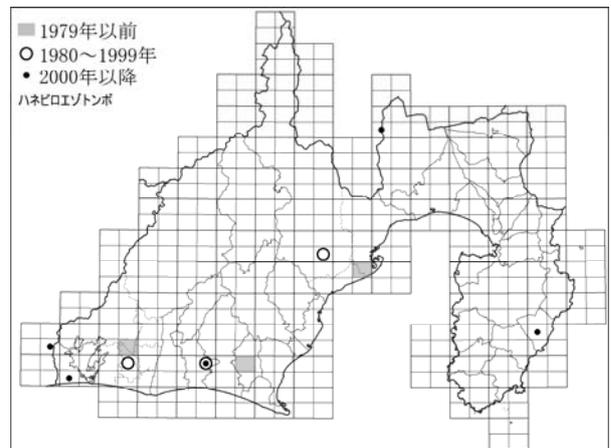
9. 標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(加須屋 真)



袋井市 2011年8月8日 福井順治



ホッケミズムシ *Hesperocorixa distanti hokkensis* (Matsumura, 1905)

ミズムシ科 Corixidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧(NT)]

1. 種の解説

体長 9.5~11.5 mm。淡黄色で背面は多数の細い黒色横条斑を装う。前胸背板の黒色横条はおおむね直線状で9~10条、半翅鞘のものは細かく波曲あるいは各々連絡し後方ほど顕著。体は腹背にやや扁平な短円筒形で、翅端は狭く丸まる。肢は前肢では著しく短く、跗節は1節から成り厚みのあるサジ状、腹面は広くえぐられ長毛・剛毛と短棘(オスのみ)をそれぞれ列生、末端の爪は1本で細い鉤状、中肢は細長く、末端に甚だ細長い2本の爪を具え、後肢は脛・跗節が扁平で長毛を密に列生した遊泳脚となり、跗節は2節、爪は1本で跗節第2節末端と癒合する。

成虫は秋から春にかけて多く見られ、早春に繁殖する。

2. 分布

日本固有亜種で、山形県以南の本州、四国、九州に分布する。本州の東北地方、北海道、千島と、国外の樺太、朝鮮半島、中国北部に分布する個体群は基準亜種 *Hesperocorixa distanti distanti* (Kirkaldy, 1899)、とされる。県内では磐田市桶ヶ谷沼、浜松市西区篠原町の記録があり、浜松市南区松島町、浜松市西区坪井町での採集例がある。

3. 生息環境

ヨシやガマなどの抽水植物が繁茂する池沼に生息する。

4. 生息状況

県内では採集例が少なく、詳細な生息状況は不明である。磐田市桶ヶ谷沼では数回調査したが、全く生息は確認できなかった。浜松市南区松島町の生息地では2000年前後まで相当数が見られたが、近年は非常に少なくなった。他の生息地では単発的に確認されるにすぎない。

5. 減少の主要因と脅威

桶ヶ谷沼では静岡県自然環境保全地域として十分な保全対策が講じられてきたはずであるが、コバンムシなど、他の数種の水生昆虫とともに全く見られなくなってしまった。減少の要因として、池自体の富栄養化や腐植質の堆積に起因する水質の悪化(31)、外来魚やアメリカザリガニなどによる捕食圧(52-3)の増加が考えられる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。浜松市南区松島町では数ヶ所の池が存在する公園として管理されているが、池の水生生物に対する保護対策は特に講じられてはいない。

7. 特記事項

浜松市松島町のホッケミズムシの生息する池は人工的な池であるので、同様な環境の池を人為的に作ることによって、生息地が増加する可能性が考えられる。

8. 主な文献

杉山恵一 編(1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査および立地条件調査-。(財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

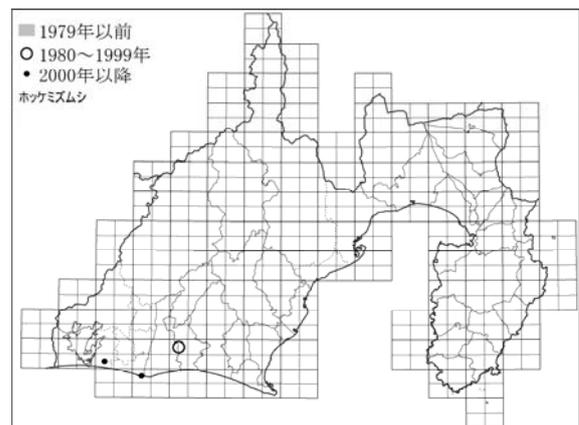
9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

浜松市産 2014年12月18日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescripta circumpictula* W. Horn, 1938

ハンミョウ科 Cicindelidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-②③)変更コード9

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

体長 14~17 mm。背面は暗緑灰色で翅鞘は外縁に沿って多少とも波状に汚黄白色、静岡県産の個体は翅鞘会合部の白紋が無いが、発達しないものが多い。腹面は紫銅色の金属光沢を有する。体はおおむね細長いヒョウタン形、肢は細長い。

成虫は 6~9 月に出現し、砂上で他の小昆虫などを捕食する。幼虫は砂中に深い縦穴を掘り、巣穴の入り口で待ち伏せして、オオハサミムシなどの小昆虫を捕食する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、濟州島、中国、サハリン、モンゴル、シベリア東部などに、国内では北海道、本州、伊豆大島、四国、九州に分布する。県内では静岡市清水区三保海岸と浜松市遠州灘海岸の記録がある。

3. 生息環境

海岸の砂浜や大河川の砂質の河川敷に生息する。国内の分布は局所的で、相当広範囲の砂地がないと生息していないようである。

4. 生息状況

三保海岸では砂浜の浸食防止のための客土により生息地は破壊された。浜松市遠州灘海岸では安定的に生存しているようである。同海岸の 1ヶ所の生息地では 10 数年間生息情報がなかったが、最近再発見された。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の道路建設 (24) や護岸工事 (14) による生息環境の変化、車両の走行や人の踏み付け (51) による生息環境の破壊、砂浜の浸食防止のための客土による生息地の埋没 (51)、外来植物の侵入による生息地の植物被度の変化 (54) などが原因で減少した。また、浜松市遠州灘海岸は現存する数少ない生息地であるので、愛好者による高い採集圧 (41) が懸念される。

6. 保護対策

浜松市遠州灘海岸では巨大地震に備えた防潮堤が建設されるため、静岡県浜松土木事務所と有識者を中心として熱心な保全活動が行われている。

7. 特記事項

石川県以西の日本海側と大陸に分布する個体群は基準亜種 *Chaetodera laetescripta laetescripta* (Motschulsky, 1860) とされる。

8. 主な文献

- 芦田 久 (1998) カワラハンミョウの分布と変異. 月刊むし, (330): 5-9
- 平井克男 (2005) カワラハンミョウ 遠州浜の記録. 駿河の昆虫, (209): 5826
- 平井克男 (2014) カワラハンミョウの調査記録. 駿河の昆虫, (246): 6768
- 多比良嘉晃 (1999) 絶滅か? 三保のカワラハンミョウ. 静岡の甲虫, 11(1/2): 62-63
- 多比良嘉晃・松本雅道 (2000) 静岡県における海岸性甲虫相. 環境システム研究, (7): 39-71

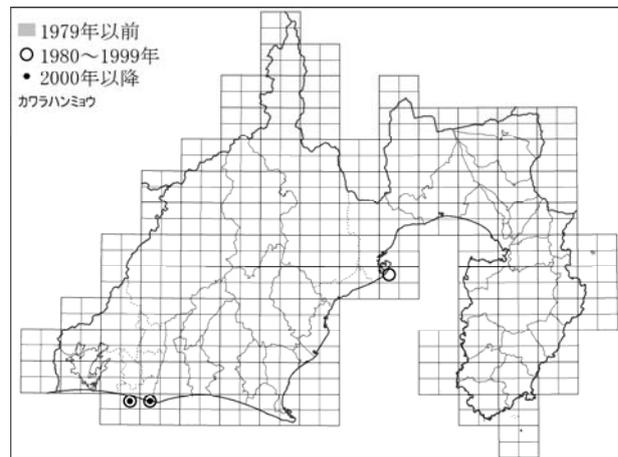
9. 標本

浜松市産、静岡市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa
浜松市産 2017年7月 撮影: 石川 均



キボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859)

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更コード6

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

体長 3.0~3.4 mm。黄赤褐色で強い光沢を有し、前胸背板前方と基半会合部両側の縦条及び側縁部をのぞく翅鞘は黒褐色、翅鞘側縁の黄赤褐色部は中央前と 3/4 付近で内側斜め後方へ広がる。半長球形で背面は凸隆し、腹面はほぼ平坦、翅鞘には 9 条内外のやや強い点刻列を具える。

2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジア、インドなどに、国内では本州（関東地方以南）、四国、九州に分布する。国内の分布はきわめて局地的であるが、最近では各地で新産地が発見されている。県内では周智郡森町、磐田市桶ヶ谷沼と浜松市南区松島町から記録されており、磐田市鶴ヶ池で採集例がある（未発表）。森町の記録（井上，1995）は溪流で得られているので誤認の可能性はある。

3. 生息環境

水生植物の豊富な比較的浅い池沼に生息する。

4. 生息状況

桶ヶ谷沼では 2014 年に生息を確認することができた。松島町でも最近確認されているものの、個体数は減少した。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化（54）、農薬・肥料などによる水質汚染（32）、池沼そのものの埋め立て（12）などが考えられる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

成虫は水中のイグサの茎や根に尾端を差し込む行動をとり、これを呼吸法の一つと推察する報告がある。

8. 主な文献

阿部光典（1988）ゲンゴロウ類の分布に関するメモ．甲虫ニュース，（81）： 7

井上智雄（1995）太田川上流・吉川の流水動物相調査(1)．昆虫と自然，30(13)： 23-26

北野 忠・記野直人・長谷川洋・北山 昭（2000）静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録—本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として—．甲虫ニュース，（129）： 7-9

Kudo, Y. & H. Kojima (2010) Observation of the respiratory strategy of *Neohydrocoptus bivittis* (Coleoptera, Noteridae). *Elytra, Tokyo*, 38: 85-86

9. 標本

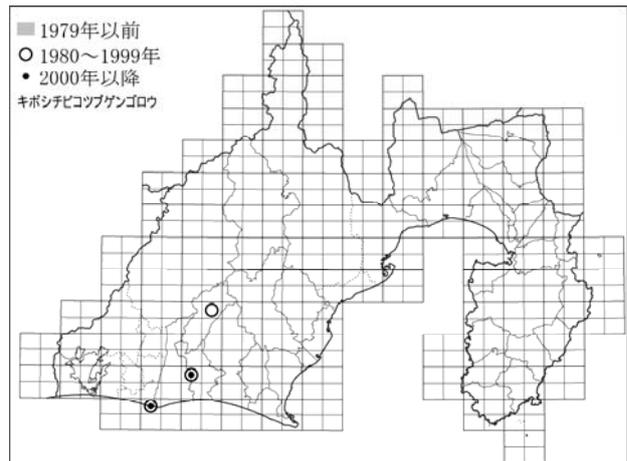
磐田市産：神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa

浜松市産 2014年7月23日 石川 均採集



ニセコケシゲンゴロウ *Hyphydrus orientalis* Clark, 1863

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

体長 3.8~4.5 mm。体は短卵形。背面は黄褐~黄赤褐色で光沢は雌雄とも強いが、メス(静岡県産)は光沢を欠く。複眼間には小さな2暗色紋を持つ個体が多い。前胸背後縁は両側をのぞき暗色となり、その暗色紋の前縁は中央部が切れ込む。ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus japonicus* Sharp, 1873 に似て外見での区別は困難である。オス交尾器中央片が逆馬蹄形であることで、それが長楕円形・板状で先端部が扇状に広がるケシゲンゴロウと区別される。

成虫は7~12月にえられている。

2. 分布

国外では台湾、中国、東洋区に、国内では本州(静岡県)、南西諸島(沖縄本島、西表島、与那国島)に分布する。県内では浜松市南区松島町で記録があり、他に浜松市西区篠原町での採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

池沼、水田、湿地などの止水域に生息する。

4. 生息状況

浜松市南区松島町ではヨシやガマなどが繁茂する池の水深の浅い場所に多く生息していたが、現在は確認できなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

県内においては、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などが考えられるが、全くいなくなった原因は不明である。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

本種に似たケシゲンゴロウとは同所的(同じ池)には確認されず、住み分けをしていると考えられている。

8. 主な文献

Biström, O. (1998) Dytiscidae: III. The *Hyphydrus* Illiger species of China (Coleoptera). Jach & Ji(eds.), Water Beetles of China II, pp. 93-100. Zoologisch-Botanische Gesellschaft in Österreich and Wiener Coleopterologenverein, Vienna.

北野 忠・記野直人・長谷川 洋・北山 昭(2000) 静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として-. 甲虫ニュース, (129): 7-9

森 正人・北山 昭(2007) 改訂版図説日本のゲンゴロウ(第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

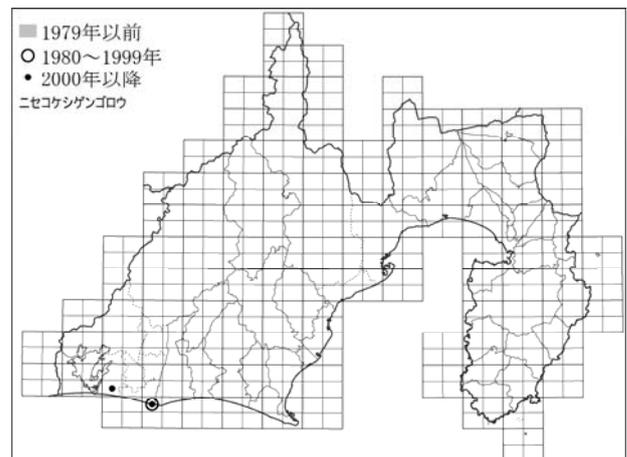
9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 Y.Tahira

浜松市南区産 1999年10月23日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃・石川 均)

キタノツブゲンゴウロウ *Laccophilus vagelineatus* Zimmermann, 1922

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧IB類(EN)]

1. 種の解説

体長 3.3~3.5 mm。体は逆卵形で、コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* Sharp, 1873 に似るが、本種の方がやや小さく、上翅の基部近くの黄色横帯がより太く目立つ。オス交尾器中央片の先端近くは三角形に張り出す。

成虫は灯火に飛来することがある。

2. 分布

国外ではロシア、中国、韓国に、国内では本州（静岡県、茨城県）に分布する。県内では磐田市福田、浜松市南区松島町・西区入野町・篠原町で記録があり、浜松市南区白羽町での採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水深 50 cm ほどの水生植物が豊富な人工池や放棄養鰻池などで確認されている。

4. 生息状況

浜松市南区松島町では、2002 年頃までは 1 回の調査で複数個体が確認されていたが、近年は明らかに個体数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

県内では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化 (54)、アメリカザリガニの増加による水生植物の減少 (54) などが要因と考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

コウベツブゲンゴロウと形態的に似ていることから、過去のコウベツブゲンゴロウの記録に本種が混同されている可能性がある。また、本種を「中国からの養鰻に利用される稚鰻や他魚種の輸入に伴い移入した可能性が高い」と考える研究者もいる。

8. 主な文献

加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘 (2008) 第 5 章 1 項 6 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県産業部振興局研究調整室 編, 静岡県戦略課題研究「快適空間『佐鳴湖』の創造」研究報告書, pp. 470-523. 同室, 静岡.

疋田直之 (2015) コウチュウ目. 茨城県自然博物館総合調査報告書 2013 年-茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向-, pp. 39-40.

森 正人・北山 昭 (2007) 改訂版図説日本のゲンゴロウ (第 2 刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

Kamite, Y., N. Hikida & M. Sato (2005) Notes on the *Laccophilus kobensis* species-group (Coleoptera, Dytiscidae) in Japan. *Elytra*, 33(2): 617-628

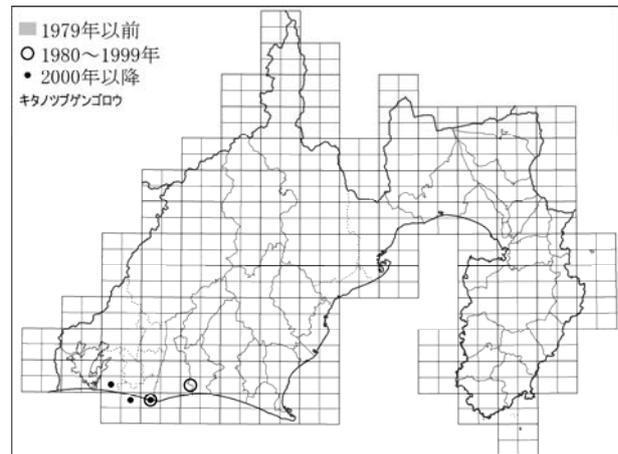
9. 標本

浜松市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 Y.Tahira

浜松市南区産 2014 年 11 月 10 日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃・石川 均)

ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更コード6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)]

1. 種の解説

体長3.9~4.7 mm。体は逆卵形で幅広い。背面は淡黄褐~黄褐色で微細な網状印刻に密に覆われ、やや強い光沢がある。前胸背の前縁中央部と後縁は暗色。上翅には6~7条の暗褐~黒色の輪郭をもつ縦条を並列するが不規則に断続、合着する。触角、口枝は黄褐色で先端は暗色、腹面は黄褐色、肢は黄褐~茶褐色。

成虫は3~12月に見られる。成虫、幼虫ともに肉食とされる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では磐田市桶ヶ谷沼と浜松市南区松島町で記録があり、他に掛川市兼政池での採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

平野部から丘陵の浮葉植物などの豊富な池沼、湿地、ため池、放棄水田、河川周囲の池に生息する。

4. 生息状況

県下での最近の記録は少なく、詳細な生息状況は不明であるが、生息地、個体数とも減少が著しい。磐田市桶ヶ谷沼では1990年頃以降、確認されなくなったようである。浜松市南区松島町でも、2000年代初め頃までは多数生息していたが、近年はほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

県内では植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などが脅威となっている。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

アメリカザリガニの侵入によって本種を含む水生昆虫が絶滅した場所もあると聞く。

8. 主な文献

神奈川県立博物館 編(1995) 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8): 1-66

北野 忠・石田和男(2000) 遠州地方で採集された水生鞘翅目. 遠州の自然, (23): 9-14

北野 忠・記野直人・長谷川洋・北山 昭(2000) 静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として-. 甲虫ニュース, 129: 7-9

杉山恵一 編(1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. 財団法人日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

森 正人・北山 昭(2007) 改訂版図説日本のゲンゴロウ(第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

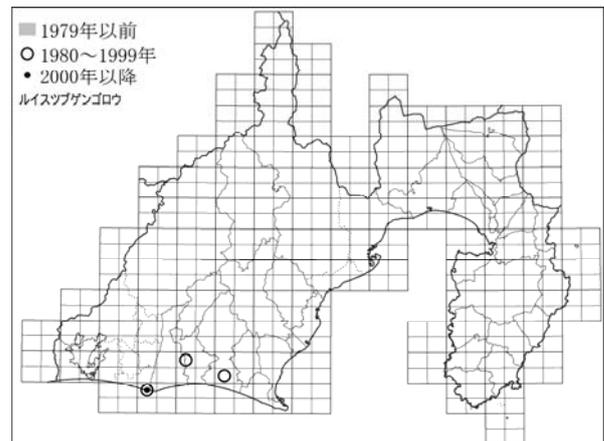
9. 標本

磐田市産：神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵



©2019 Y.Tahira

浜松市南区産 2002年5月6日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃・石川 均)

オオミズスマシ *Dineutus (Spinodineuttus) orientalis* (Modeer, 1776)

ミズスマシ科 Gyrimidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更コード6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長8~10 mm。体は長楕円形、黒色で金銅光沢を帯び、前胸・上翅の両側平圧部は黄色、体下面・口枝・肢は黄褐色。上翅側縁後方と翅端には棘突起がある。

成虫は3月中旬から出現し、産卵期は4~8月で、水草の茎の表面などに産卵する。幼虫期間は約20日。11月には水面から姿を消し、枯れ葉の下などで越冬する。成虫は水面を巡回しながら移動し、水面に落ちた小昆虫を捕食する。幼虫はアカムシやボウフラなどを捕食する。

2. 分布

国外ではサハリン、シベリア、朝鮮半島、中国、ベトナムに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆半島、沼津市井田、静岡市清水区折戸・駿河区用宗、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市天竜区二俣町などで記録があり、伊豆市小下田、掛川市東横地・本所、掛川市入山瀬、磐田市鶴ヶ池などで採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

河川の上流、水田、池沼などに生息する。

4. 生息状況

県内には広く分布するが、生息地は多くない。2000年前後には非常に個体数が多かった生息地もあったが、近年、各所で個体数が激減し、まったく確認できない場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

埋め立て(12)による生息環境の消失、農薬汚染(32)、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)などが脅威であるが、それだけでは説明できないほど個体数が減少している。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

磐田市桶ヶ谷沼では2007年に確認例があるようである。

8. 主な文献

北野 忠(2000) 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川自然保全研究会報告書, (15): 17-24

草間慶一(1983) VI甲虫類(鞘翅目). 杉山恵一 編, 静岡県の重要昆虫, pp. 114-156. 第一法規出版, 東京.

森 正人・北山 昭(2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ(第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

森本 桂 監修(2007) 新訂原色昆虫大図鑑 第II巻(甲虫篇). 北隆館, 東京, 526 pp.

坪井俊久(1977) 天竜市二俣町の甲虫類(II). 駿河の昆虫, (98): 2871-2878

由比雅樹(1997) 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023

9. 標本

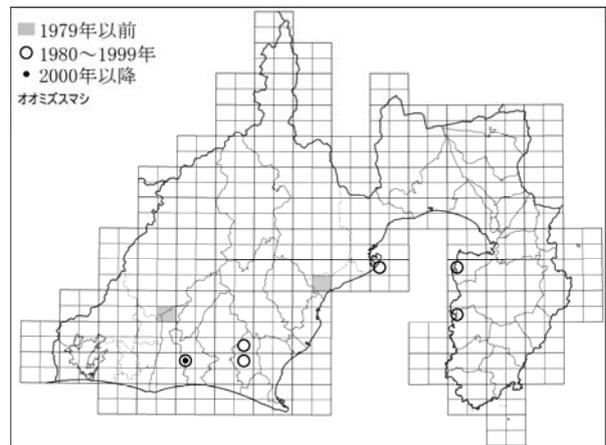
掛川市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃・石川 均)



©2019 H.Ishikawa

掛川市入山瀬産 1984年8月16日 石川 均採集



1. 種の解説

体長 6.0~7.5 mm。黒色で光沢を有するが、メスでは翅鞘の光沢が曇る。肢は黄褐色。体は短倒卵形で背面は適度に凸隆し腹面は平坦、翅鞘は 11 条の点刻列を装う。オス交尾器中央片の末端は幅広く裁断状を呈する。

成虫は 1 年中見られ、水面を遊泳し、水面に落ちた小昆虫などを捕食する。幼虫も肉食性で、アカムシ(ユスリカ科幼虫)などの水中の小動物を捕食する。

2. 分布

日本固有種とされ、北海道、本州、四国、九州、種子島、対馬に分布する。県内では伊豆半島、富士宮市麓、掛川市佐夜鹿、袋井市豊沢、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市天竜区二俣町、浜松市北区引佐町で記録があり、他に富士宮市沼久保の富士川、島田市神谷城、掛川市高御所で採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼や流れの緩やかな小河川に生息する。開放水面を巡回しているところを発見することが多い。きわめて小規模な水域に生息していることもある。

4. 生息状況

県内の記録は少なく、生息状況の詳細は不明である。磐田市桶ヶ谷沼では近年の数回の調査では全く確認できなかった。また、各地の池沼の調査においても近年確認されなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

開発などによる池沼の埋め立て(12)、農薬・肥料などによる水質汚染(32)、植生遷移の進行や富栄養化に伴う水質悪化(54)、侵略的外来生物アメリカザリガニの植生の食害による水環境の変化(54)などが考えられるが、最近の急激な減少の原因は不明である。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

袋井市愛野の池では以前多数生息していたとの情報がある。

8. 主な文献

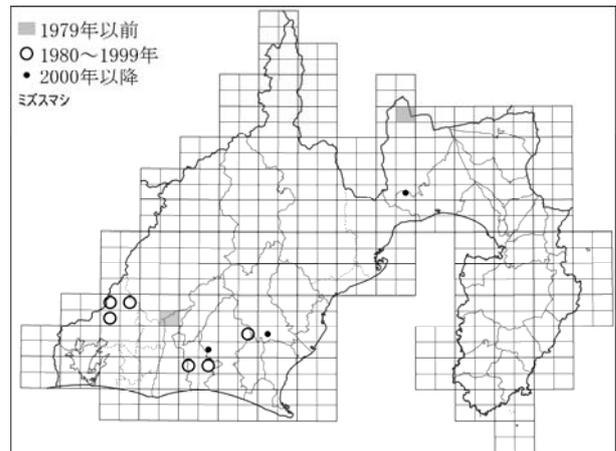
- 井上智雄(1991) 環境指標を目的とするポンドスウィッピングの試み. 昆虫と自然, 26(14): 14-15
- 北野 忠(2000) 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川県自然保全研究会報告書, (15): 17-24
- 杉山恵一 編(1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.
- 田村正人(1962) 富士農場およびその付近の昆虫目録. 東京農業大学短期大学農業科・東京農業大学日本植物園研究所, 31 pp.
- 坪井俊久(1977) 天竜市二俣町の甲虫類(Ⅱ). 駿河の昆虫, (98): 2871-2878

9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa
浜松市産 1999年5月8日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

コミズスマシ *Gyrinus (Gyrinus) curtus* Motschulsky, 1866

ミズスマシ科 Gyrinidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①)変更コード6

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

体長 4.9~5.6 mm。黒色で鋼様の光沢があり、肢は黄褐色。体は短楕円形で長さは幅の約 1.8 倍、背面はよく凸隆し腹面は平坦、翅鞘は 11 条の点刻列を装う。オス交尾器中央片は先端に向かい細まり、末端は弧状を呈する。

成虫は水面を遊泳し、水面に落ちた小昆虫などを食べる。

2. 分布

日本固有種と考えられ、北海道、本州、四国、九州に分布する。国外では樺太に分布するとされていたが、同地の個体は *Gyrinus sachalinensis* Kamiya, 1936 の誤同定のものである。県内では磐田市桶ヶ谷沼の記録があり、富士宮市沼久保の富士川での採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼や流れの緩やかな小河川に生息する。

4. 生息状況

県内の記録は一例しかなく、詳細な生息状況は不明である。磐田市桶ヶ谷沼では近年の調査において全く確認されていない。富士宮市沼久保では河川敷にある池から流れ出た小流でミズスマシ *Gyrinus (Gyrinus) japonicus* Sharp, 1873 とともにえられた。

5. 減少の主要因と脅威

磐田市桶ヶ谷沼では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う水質悪化 (54)、侵略的外来生物アメリカザリガニの植生の食害による水環境の変化 (54) などが減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

かつては、各地の水田、池、小川などにふつうであったとされるが、近年、全国的に激減している。

8. 主な文献

中根猛彦 (1987) 日本の甲虫 (81) . 昆虫と自然, 22(12): 36-40

Nilsson, A. N., M. Lundmark, S. K. Kholin & N. Minakawa (2001) A faunistic review of the *Gyrinus* species of the Far East of Russia (Coleoptera: Gyrinidae). *Koleopterologische Rundschau*, 71: 27-35

佐藤正孝 (1977) 日本産ミズスマシ科概説 (3). 甲虫ニュース, (39): 1-4

杉山恵一 編 (1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財) 日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

9. 標本

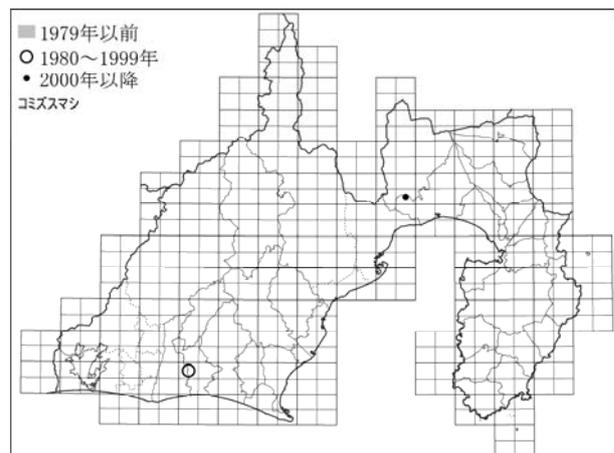
富士宮市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira

富士宮市産 2000年12月3日 多比良嘉晃採集



静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①)変更コード6

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

体長 4.6~5.2 mm。黒色で鋼様の著しい光沢があり、肢は黄褐色。体は短楕円形で長さは幅の約 1.9 倍、背面はよく凸隆し腹面は平坦、翅鞘は 11 条の点刻列を装う。オス交尾器中央片末端は広く丸まる。

止水性のミズスマシで、植物の間の水面を旋回し、開放水面にはあまり出でてこない。肉食性で、水面に落ちた昆虫などを食べ、幼虫も水中でアカムシ(ユスリカ科幼虫)などの小水生生物を捕食する。成虫は灯火に飛来することがある。

2. 分布

日本固有種と考えられ、本州、四国、九州に分布している。県内では磐田市桶ヶ谷沼と浜松市南区松島町で記録があり、他に牧之原市白井で採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

水生植物が豊富で水質が良好な池沼や流れの緩やかな小河川に生息する。

4. 生息状況

磐田市桶ヶ谷沼では近年の調査において全く確認されていない。浜松市南区松島町では 2001 年頃までは個体数がきわめて多かったが、近年は激減した。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)や、侵略的外来生物アメリカザリガニの植生の食害による水環境の変化(54)などが考えられるが、最近の急激な減少の原因は不明である。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

浜松市南区松島町では 2 月の採集例がある。

8. 主な文献

北野 忠・石田和男(2000) 遠州地方で確認された水生鞘翅目. 遠州の自然, (23): 9-14

杉山恵一 編(1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査および立地条件調査-. (財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

9. 標本

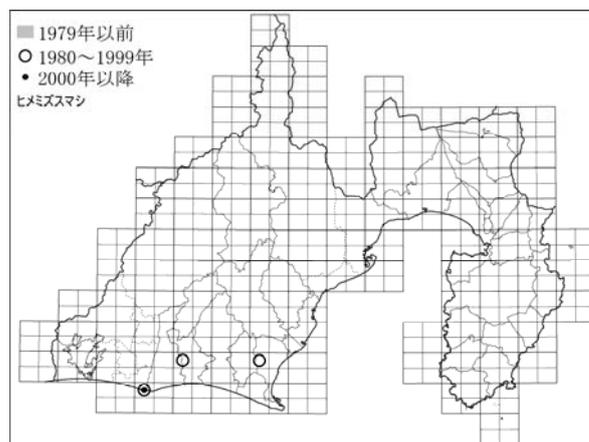
浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa

浜松市産 2014年10月1日 石川 均採集



ヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873

カミキリムシ科 Cerambycidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件①)変更コード5

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)]

1. 種の解説

体長8~14 mm。体は赤~赤褐色。上翅は中央から前方に2対の明色紋があり、その周辺は暗色部が広がるが時に明色紋は縦につながる。前胸背は縦長で、背面は浅く密に点刻されて小毛をまばらに生やし、正中部の無点刻部以外に光沢はない。各腿節は後半が強く肥大し、中脚脛節は基半が強く湾曲する。

成虫は5~8月に出現し、クリの花の咲く時期に多く、好んでクリの花を訪れるほか、ブナ科の薪に集まり、また灯火にもよく飛来する。幼虫は各種の広葉樹特にブナ科の枯れ材を食べる。

2. 分布

国外では朝鮮半島~インドシナ半島、台湾に、国内では北海道(南部)、本州、四国、九州、飛鳥、佐渡島、隠岐、淡路島、対馬、壱岐、屋久島、伊豆新島、奄美大島、徳之島に分布する。県内では下田市、伊豆市湯ヶ島、静岡市葵区安倍川水源地域、静岡市葵区田代二軒小屋・赤石温泉・東河内温泉、榛原郡川根本町奥泉、菊川市加茂、周智郡森町三倉、磐田市鶴ヶ池、浜松市中区東伊場、浜松市浜北区於呂、浜松市北区滝沢町、浜松市天竜区二俣町・水窪町・佐久間町佐久間ダム・佐久間町中部など県内各地で記録があり、他に、榛原郡川根本町水川、菊川市半済の採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

落葉広葉樹林、常緑広葉樹の自然林から2次林まで、また農山村から緑の多い住宅地まで広範に生息する。

4. 生息状況

県内では富士山周辺をのぞくほぼ全域から記録があり、普通種とされていた。しかし、菊川市半済における1990年の採集例(未発表)以降、確実な採集例が見あらず、現在の生息状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)や里地・里山の管理放棄による環境変化(53)が影響していると考えられるが、それだけでここまで衰亡することは考えられないので確実な要因は不明(99)である。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

各地の平地から山地に個体数も多く生息していたが、1970~1980年代以降に全国各地で減少し、現在はほとんどすべての地域で確認できなくなっている。

8. 主な文献

草間慶一・多比良嘉晃(1979)大井川上流域のカミキリ 第2報. 東海自然史, (3): 62-71

草間慶一・多比良嘉晃・市川恭治(1986)甲虫類. 長島ダム建設地周辺環境調査報告書, pp. 183-237. 建設省中部地方建設局長島ダム工事事務所.

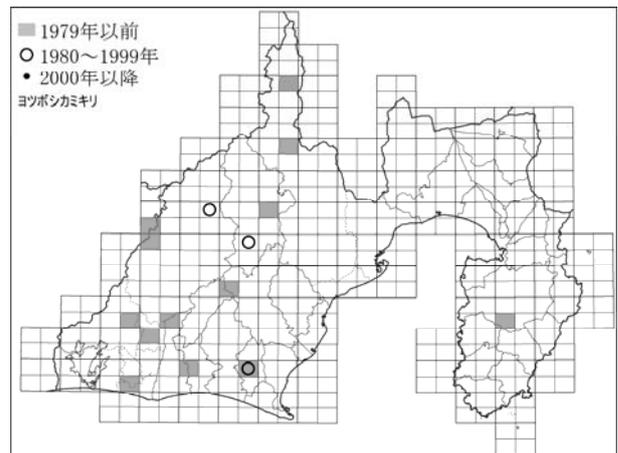
9. 標本

川根本町産：川根本町資料館やまびこ所蔵



©2019 T.Sakai

川根本町奥泉産 1978年6月18日 撮影：酒井孝明



(多比良嘉晃・石川 均)

ギフチョウ *Luehdorfia japonica* Leech, 1889

アゲハチョウ科 Papilionidae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (要件-①②)変更コード 1, 6

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

開張およそ 55 mm。翅には黄と黒の条紋があり、後翅の後部に赤斑をもつ。年 1 回 3 月下旬～4 月中旬に発生する。幼虫の食餌植物は東部ではランヨウアオイとカギタアオイ、西部ではヒメカンアオイ。蛹で越冬。タチツボスミレなどのスミレ類の青色の花を好み、モミジイチゴやカタクリなどでも吸蜜する。

2. 分布

日本の固有種であり、本州のみに分布する。県内の分布は東西 2 地域に分断され、東の分布地域は安倍川より東方で富士市、富士宮市まで、西の分布地域は磐田原台地を東限として愛知県境までの低山地である。

3. 生息環境

春に林床まで光が届くような低山地の雑木林や、成虫の吸蜜植物（スミレなど）の多い明るい林縁、あるいは森林が伐採された明るい空間などが生息地となる。

4. 生息状況

安倍川より東で富士川より西の静岡、清水、由比、蒲原の地域では地域による差はあるが 1980 年代初めまで生息していたがそれ以降記録がない。芝川、富士宮地域では 2014 年頃までは確認されたが現在は大変厳しい状況となっている。一方西の分布地域でも湖西市をはじめ多くの産地が失われたが、旧引佐町と旧天竜市境では安定して生息している。

5. 減少の主要因と脅威

拡大造林による低山地の雑木林の減少と、林業の衰退のためスギ・ヒノキ林を伐採しなくなったことにより生息に適する環境が激減したためとみられる (71)。

6. 保護対策

富士宮市及び浜松市では条例により採集が規制されている。生息地の環境整備が必要。林、林床、林縁の除伐や草刈りなどにより食草のカンアオイ類、スミレなどの吸蜜植物の生育環境を整備すれば生息密度の増加や生息地の拡大が期待できる。

7. 特記事項

関西地方ではシカやイノシシにより、カンアオイや吸蜜植物が食べつくされ、生息地が失われている例がある。

8. 主な文献

- 石井昌司 (1959) 1959 年に採集したギフチョウの記録. 駿河の昆虫, (26): 659
- 諏訪哲夫 (2015) 富士宮市天子ヶ岳・長者ヶ岳のギフチョウの衰退. 駿河の昆虫, (251): 6875-6876
- 高橋真弓 (1972) 愛知県境宇利峠付近のギフチョウ. 駿河の昆虫, (78): 2293
- 高橋真弓・諏訪哲夫 (1990) 故稲葉茂氏所蔵蝶類標本目録の発行について. 駿河の昆虫, (149): 4255-4283
- 渡辺一雄 (1966) 静岡県磐田原のギフチョウについて. 駿河の昆虫, (55): 1526-1527

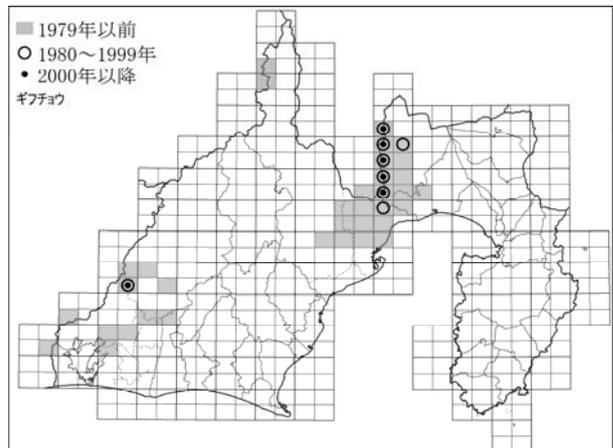
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(鈴木英文・諏訪哲夫)



富士宮市産♂表面 2013年4月16日 池谷 正採集



ヒメシロチョウ *Leptidea amurensis amurensis* (Ménétriès, 1858)

シロチョウ科 Pieridae

静岡県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (要件-①②)変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)]

1. 種の解説

開張およそ40~45 mm。翅の表裏ともにほぼ白色で前翅の先端に黒斑がある。胴体・翅の形ともに細く、飛び方も弱々しい。蛹で越冬。幼虫の食餌植物はツルフジバカマ(マメ科)。成虫は4月中旬から9月中旬に3回発生し、草原に咲くアキノタムラソウ、ツルフジバカマなどの花で吸蜜するほか、オスは湿った路面において集団で吸水することもある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア南東部、中国東北部、モンゴルなどに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では小山町・御殿場市・裾野市・富士市・富士宮市・旧芝川町の富士山麓から記録がある。静岡市からは1953~1963年に4例の記録がある。

3. 生息環境

低山地から標高およそ1,100 m、幼虫の食餌植物ツルフジバカマの生育する草原に広く生息するほか、かつては富士宮市沼久保のような鉄道線の法面などの小規模な草地や堤防も生息地であった。

4. 生息状況

富士宮市には生息地が多く、かつては個体数もかなり多かった。旧芝川町は1953年、小山町は1965年、富士市は1974年が最後の記録。現在は富士宮市の朝霧高原の一角に細々と生息しているほか、御殿場市と裾野市では東富士演習場に個体数は少ないものの比較的安定して生息している。

5. 減少の主要因と脅威

富士山麓の草原が、草地造成や造林のほか各種の開発(16)や、採草や火入れをしなくなって植生遷移が進行(54)するなど、1970年代から急速に消滅・衰退したことにより本種は大きな影響を受けている。

6. 保護対策

この種のための保護対策は講じられていない。朝霧高原の一部で草刈りが行われており、この作業が生息地保護に効果をもたらすことを期待したい。また、東富士演習場内は開発からは守られ、演習のための場内管理が行われ、結果として草原が維持され、本種の生息につながっている。

7. 特記事項

草原の消滅・衰退は全国的にも急速に進行しており、本種の存続が危惧されるところが多い。

8. 主な文献

鈴木英文(1963) 静岡市内でヒメシロチョウ採集. 駿河の昆虫, (44): 1214

増田和夫(1966) 駿東郡小山町の蝶類. 駿河の昆虫, (53): 1452-1453

清 邦彦(1975) 富士南麓久沢新田付近の蝶. 駿河の昆虫, (88): 2589-2590

清 邦彦(1987) 富士山の蝶類分布記録. 駿河の昆虫, (138): 3994-4001

高橋真弓(2000) 1995~1999年富士山麓における蝶類採集・目撃記録. 駿河の昆虫, (190): 5321-5332

諏訪哲夫・鈴木英文・高橋真弓(2012) 2011年, 富士山地域の蝶類の記録. 駿河の昆虫, (237): 6534-6539

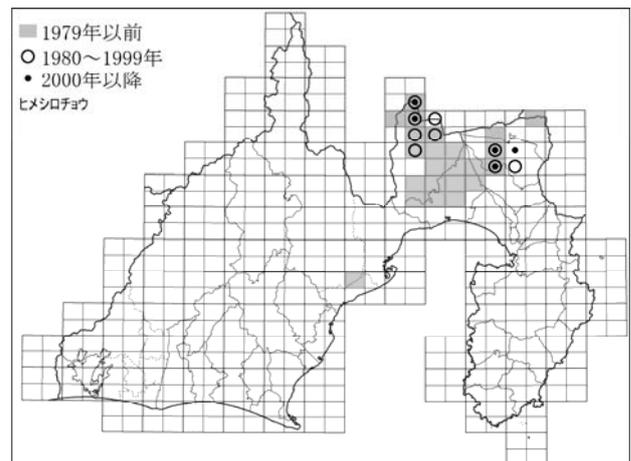
9. 標本

各産地(多数): ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



御殿場市産♂表面 2015年7月30日 諏訪哲夫採集



1. 種の解説

開張およそ 65 mm。オスの翅表は濃黄色、メスは蒼白色、4翅に1個ずつの橙赤色の小斑をもつ。幼虫の食餌植物はクロツバラ (クロウメモドキ科)。成虫は8月上旬より現れ、成虫で越冬する。翌春になって産卵し、母チョウは長生きで7月下旬まで見られることがある。

2. 分布

国外では朝鮮半島から中国東北部、極東ロシア沿海州に、国内では本州中部地方と東北地方の一部に分布する。県内では富士山東麓～西麓に記録がある。

3. 生息環境

食樹であるクロツバラが多く、アザミ類やマツムシソウが生育する草原が生息地となる。

4. 生息状況

富士宮市、御殿場市、小山町から記録がある。小山町では1990年が最後となる。御殿場市では1988年の記録以降2011年に記録されている。富士宮市では1984年頃までは記録が多かったが、その後記録はごく少なくなり、2009年以降は2件のみとなっている。

5. 減少の主要因と脅威

各種の土地利用 (16) や植生遷移の進行 (54) などにより、食樹のクロツバラが激減していることが要因の一つとみられる。

6. 保護対策

特にこの種の保護のための対策はとられていない。草刈り、火入れなどを定期的に行うことにより草原を維持することが必要であり、同時に食樹のクロツバラを植栽すれば個体数の回復が期待できる。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

- 増田和夫 (1966) 駿東郡小山町のヤマキチョウについて. 駿河の昆虫, (56): 1538-1539
 鈴木英文 (1978) 静岡・山梨県のヤマキチョウ属について. 駿河の昆虫, (100): 2937-2944
 相澤和男 (1985) 静岡県富士宮市および山梨県下部町におけるヤマキチョウの採集記録. 駿河の昆虫, (13): 3788
 高橋真弓 (2009) 富士山富士宮口高鉢駐車場で採集した蝶類-ヤマキチョウなどの記録. 駿河の昆虫, (247): 6790-6791
 諏訪哲夫・鈴木英文・高橋真弓 (2012) 2011年, 富士山地域の蝶類の記録. 駿河の昆虫, (237): 6534-6539
 高橋真弓 (2014) 2013年, 富士山静岡県側山麓における蝶類の採集記録. 駿河の昆虫, (247): 6790-6791

9. 標本

富士宮市産 (少数個体) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(鈴木英文・諏訪哲夫)



富士宮市産♀表面 2009年8月28日 高橋真弓採集

